

『新宮町の歴史事典』がすべて完結!

『播磨新宮町史』本文編 発刊
 新宮町の近現代史から
 たつの市を知る

旧新宮町では、昭和30、40年代に発行された旧町史の後を引き継ぐかたちで、平成6年度に新しい町史の編集事業を始めました。平成16年に「史料編Ⅱ」を、翌17年に「史料編Ⅰ」と「文化財編」を、そして今回「本文編」を発刊し、四冊すべてが完成しました。

すでに刊行されている『龍野市史』（全七巻）、『御津町史』（全四巻）、『揖保川町史』（全三巻）とあわせると、これで市域すべての市町史がそろったこととなります。

学術的にも評価される、充実した内容の市町史が全地域で刊行されていることは、たつの市のもつ歴史の豊かさと地域の方々の歴史文化遺産に対する理解の証しといえるでしょう。

「本文編」入門ノススメ

今回発刊した『播磨新宮町史』本文編には、明治、大正、昭和、平成の新宮町の近現代の歴史が記されています。

長い歳月を経て編まれたこれら市町史は、とても分厚く、文字が多いので、一見すると難しそうに気がします。しかし、じっくり読んでみると、案外地域の身近なテーマが題材にされていることがわかります。まずは、巻頭の目次を見て、

自分の興味のあるテーマを扱った小見出しを見つけ、そこから読んでみてはいかがでしょうか。

それでは、「本文編」の内容を少し紹介しましょう。

近代の新宮町は

日本農村社会の縮図？

「本文編」では、新宮町の近現代の歴史を、「揖保郡」（現在の揖保郡ではなく、たつの市、太子町、姫路市の一部を中心とした旧揖保郡を指す）とい

う郡全体の動きから描き出しています。

そこからは、廃藩置県、学校の誕生、地租改正、第二次世界大戦、市町村合併、高度経済成長など、めまぐるしく変化する時代と向き合い、さまざまな課題を克服してきた、地域の姿がみてとれます。

また、「本文編」と併せて、近現代の史料を収めた既刊の「史料編Ⅱ」を読んでいただくと、地域の発展に尽くした先人た

ちの姿がより生き生きと浮かびあがってくることでしょう。

埋もれた先人たちの発掘

さらに「本文編」では、旧町史で触れられていなかった、近代の偉人たちを取り上げました。

例えば、自由民権運動家の田峰棟吉や中井城太郎、博物学者の大上宇市などは、町史の史料収集の過程で発掘や再発見された、代表的な人物です。



『播磨新宮町史』本文編

市町史のご案内

- 『播磨新宮町史』 各5,000円
 本文編 (近現代)
 史料編Ⅰ (古代・中世・近世)
 史料編Ⅱ (近現代)
 文化財編 (考古・彫刻・美術工芸・石造遺品・歴史資料・民俗・建築・近代遺産)
- 『播磨新宮町史』全7巻 (古代～近世の本文編) 4,500円
- 『龍野市史』全7巻
- | | | |
|-----|--------------------|--------|
| 第1巻 | 本文編 (自然・考古・古代・中世) | 4,200円 |
| 第2巻 | 本文編 (近世) | 3,500円 |
| 第3巻 | 本文編 (近現代) | 4,000円 |
| 第4巻 | 史料編Ⅰ (自然・考古・古代・中世) | 6,200円 |
| 第5巻 | 史料編Ⅱ (近世) | ※品切れ |
| 第6巻 | 史料編Ⅲ (近代) | 4,000円 |
| 第7巻 | 史料編Ⅳ (現代・民俗・年表) | 4,000円 |
- 『龍野の建築』 3,500円
- 『揖保川町史』全3巻 各5,000円
- | | |
|-----|---------------------------|
| 第1巻 | 本文編Ⅰ (自然・考古・古代・中世・近世) |
| 第2巻 | 本文編Ⅱ (近世・近代・現代・農業・民俗・文化財) |
| 第3巻 | 史料編 (自然・考古・古代・中世・近世・近現代) |
- 『御津町史』全4巻 各5,000円
- | | |
|-----|-----------------------|
| 第1巻 | 本編Ⅰ (自然・考古・古代・中世・近世) |
| 第2巻 | 本編Ⅱ (近世・近現代・民俗) |
| 第3巻 | 史料編Ⅰ (自然・考古・古代・中世・近世) |
| 第4巻 | 史料編Ⅱ (近世・近現代・文化財) |

■販売場所

埋蔵文化財センター、龍野歴史文化資料館
 社会教育課 (揖保川総合支所2階)、室津海駅館
 ※一部、図書館でも販売しています。郵送での購入希望など
 詳しくはお問い合わせください。

■問い合わせ先

市教育委員会 文化財課 (埋蔵文化財センター内)
 ☎ 75・5450

ふるさと “市町

特に、多くの著作群の解明により再発見された大上宇市は、地方にありながら当時を代表する博物学者らと交流があり、その研究分野も博物学、動植物学、地学などの自然分野にとどまらず、地域の歴史にも深く関心を持っていたことが分かりました。また、総代として地域の発展に尽くした際書き残した記録類は、当時の村の様子を知る史料として

大変貴重なものです。将来の市史編集に向けて以上、新刊の『播磨新宮町史』本文編について簡単にみてきましたが、市町史に記されたことは、地域の長い歴史の中の断片にすぎず、掲載されなかったことの方が多いといっても過言ではありません。刊行された市町史とともに、収録されなかった古文書や公

文書、古写真、民俗資料、映像記録などの膨大な史料は、次の世代に伝えていきたい地域の大切な宝物といえるでしょう。

町史や市史は左記で販売しています。ぜひ一度手にとり、地域の豊かな歴史に触れてみてください。

文化財課からのお知らせ

◎11月22日、23日に市指定文化財「八瀬家住宅」を特別公開します。

◎埋蔵文化財センター特別展「揖保郡三窯～野田・林田・新宮のやきもの～」開催中
 平成22年1月25日まで

※詳細は文化財課へお問い合わせください。

